

十和田市立 新渡戸記念館だより



新渡戸記念館蔵書

十返舎一九(1765～1831)の著書『方言修行 金の草鞋』は、狂歌や洒落まじりの会話とともに全国の名所を紹介した本で、江戸庶民に旅行読みものとして親しまれました。二十一編は、山形県鶴岡から青森県恐山まで行くシリーズです。

◀『方言修行 金の草鞋二十一編』より十和田市藤島～相坂の渡船の様子。解説文には「六のへ川(＝奥入瀬川)はや川なればわたし舟つなをたぐりてわたす」とある。

平成14年 太素祭 -5月3～5日-

5月3日～5日に、稲生川上水144年記念・太素祭が行われました。上水記念日5月4日の式典では、新渡戸傳翁墓・太素塚に太素顕彰会会長中野渡春雄十和田市長をはじめとする参列者が献花を行いました。境内では様々な催しが行われ、天候に恵まれたお蔭もあり太素祭への人出は35,000人、記念館の入館者も昨年対比4割強アップの約3,200人となりました。



◀太素祭式典の様子

馬と歩いた太素ウォーク

(社) 十和田市観光協会では昨年にひきつづき、徒歩での稲生川流路見学イベント「太素ウォーク」を5月3日に開催しました。昨年同様の太素塚から稲生川取水口までの往復27kmを歩く「十和田市開拓ゆかりのコース」に、片道14kmのみ徒歩で行く「ファミリーコース」が加わり、また当地方がかつて馬産でにぎわったことにちなんで、コースの一部を馬とともに歩きました。



◀朝8時、太素ウォーク参加者たちは太素塚に集合し、入念な準備体操を行っていました。

クイズ大会 ニトちゃんとおそぼう!

当館では太素祭期間中、クイズ大会「クイズで探検ニトちゃんとおそぼう!」を開催しました。3回目となる今年は、これまで賞品としてきた記念館出版物に加えて、記念館マスコット・ニトちゃんのキーホルダーを賞品としました。参加者645名中191名の方が全問正解され、抽選の上当選者のかたがたへ賞品を郵送しました。



▲クイズ大会では、親子で楽しむ姿が多く見られました。



◀ニトちゃんをデザインしたキーホルダー

十和田市のお菓子の歴史つづる 企画展「お菓子大好き！」

クイズ大会にあわせて当館では5月3日～6月30日まで、お菓子を軸に十和田市の歴史をたどる企画展「お菓子大好き！—江戸～平成 十和田市のお菓子のうつりかわり—」を行いました。お菓子が贅沢品だった江戸時代農村の食文化や、幕末三本木原開拓で行われた名物菓子の開発、昭和30年代まで子供の社交場だった駄菓子屋など各時代のお菓子について紹介するとともに、近年使われなくなった菓子木型34点を展示し、職人たちの技の素晴らしさに触れてもらいました。開催にあたっては、十和田市郷土館、十和田市称徳館、十和田市物産協会をはじめ関係各所に協力をあおぎ資料68点を借り受けました。また4月30日～5月2日まで東奥日報に「お菓子でつづる十和田市の歴史」として3回の連載記事を掲載いただきました。

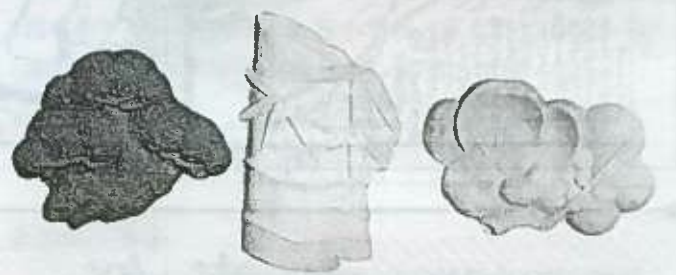


十和田市称徳館には五戸で菓子屋を営んでいた川井食料品店で使用の木型76点（一本松辰男氏寄贈）があり、その一部を展示させていただきました。

的場菓子店に残る古い菓子木型で同店の菓子職人高屋義武さんに落雁を作っていたいただきました。また、落雁製作行程をパネルで紹介しました。



市郷土館をはじめ各所から食に関わる民具を借り、昔の農村の食文化を紹介しました。手前はかつて市内中島菓子店で使用の落雁製作用大鉢で、本展のために寄贈頂きました。



▲古い木型で製作した落雁「松・竹・梅」。木型は仙台市名掛町の菓子道具師・本木貞助作。

博物館実習レポート

—10日間の実習を終えて—

当館では昨年度より学芸員資格取得に関わる博物館実習希望者1名の受け入れを開始しました。

北里大学獣医畜産学部4年生 寺崎 祐介

この実習期間中、新渡戸記念館全体を見てきて、小さな博物館はこうでなければいけないというのが伝わってきました。例えば、外で作業していた時、手伝ってくださる方もいましたし、だよりを通じて、地域の人々とも交流をはかっているのが、非常に地域に密接した館であるのが分かります。また、お客様に対しても、親切に対応するといった基本的なことでありますが、なかなか出来ないことも徹底されていたので、良かったと思います。しかし、こういったことが出来ていない館も私が行った館にはありました。そういった館を減らし、対話と連携がうまくされる博物館づくりをしないと博物館業全体の向上は少ないと思います。新渡戸記念館の皆さん、今後も良い博物館の見本となるような館をつくっていくよう、頑張ってください。



裏打ちのための絵図面搬出作業に立ちあつた実習生寺崎祐介さん。(中央)



期間中の課題として小学生向けクイズワークシートを3種類作成してもらいました。

寄贈資料から 三本木大火写真

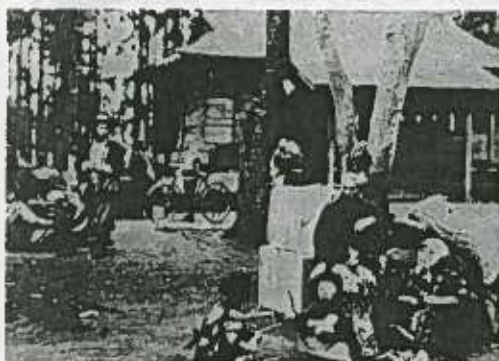
昭和16年
5月12日



昭和十六年三本木大火写真。昭和十七年三月に三本木農学校農畜科を卒業された工藤文夫さんの卒業記念アルバムに収録されていた写真です。文夫さんの弟である工藤智巳さん(十和田市)が今年三月寄贈くださいました。「拙速と三本木」の書き込みに焼け野原となった郷土への思いが感じられます。

～大火の惨状克明に写し出す～

昭和16年(1941)の大火については同年7月東奥日報社発行の『三本木町大火写真帳』に詳しく記されています。それによると昭和16年5月12日午前11時20分、稲生町七丁目の黄金湯から出火した火災は風速13mの風により燃え広がり、午後3時30分の鎮火まで約4時間で稲生町東側を中心に697戸が焼失、全町内の約3分の一が廃墟と化しました。今回寄贈の写真は、稲生町一丁目西側の建物の上から北東の方角を撮影したもので、遠景右手には火災をまぬがれた太素塚の鳥居型門と樹木が写っています。写真の手前右側には一丁目に当時あった火の見やぐらが写っており、消火に使ったとみられるホースが何本もかけられています。まだ煙が立ち昇る中、人びとは後片付けにおわれています。



太素塚拝殿前に遺残する人びと。(東奥日報『三本木町大火写真帳』より) 拝殿の場所には現在記念館があります。中央には今も太素塚に残るふた又の力エデの木が写っています。



昭和十七年太素塚鳥居型門のわきで撮影の三本木農学校卒業記念写真(工藤智巳さん寄贈)郡川写真館撮影。門はコンクリート製。昭和四十三年十勝沖地震で倒れ、その遺構はぶさとなつていました。

ありがとうございました

◆ 資料の寄贈

大沼智さん (十和田市)

- ・書籍「Life of Mrs. Flora Best Harris」
(1911年/教文館出版/新渡戸稲造序文付)1点

工藤智巳さん (十和田市)

- ・三本木大火跡古写真 (昭和16年撮影) 計2点
- ・太素塚古写真 (昭和17年撮影)

中島良雄さん (十和田市)

- ・蓮型落雁木型 (昭和32年/青森市にて製作)
- ・鯛型落雁木型 (昭和20年代/盛岡市にて製作)
- ・落雁製造用大鉢 (昭和10年代製作)
- ・三本木開墾株式会社解散記念花器
(大正11年10月中島庄司氏へ贈呈) 計4点

野月時治さん (十和田市)

- ・ヒツ (大/小) ・コネバチ (大/小) 計4点

◆ 草花の提供

鈴木すゑさん他太素塚周辺のかたがたより様々な草花を提供いただきました。



ご好意により太素塚に咲くシャガ

関連情報

● 民主党鳩山由紀夫代表が来館

6月2日十和田市での街頭演説のため来十されていた民主党鳩山由紀夫代表が演説会の後に戸来勉氏、古舘實氏のご案内で来館されました。忙しい中、休憩時間を削っての来館で、館長の説明に熱心に耳をかたむけられました。



新渡戸稲造コーナーにて。(中央・鳩山代表、右・戸来勉氏、左・新渡戸館長) 写真提供：北日本新聞社

● 太素顕彰会事務局に異動がありました

平成14年4月、太素顕彰会事務局次長をつとめた久保田博衛商工観光課長補佐が議事事務局へ、事務局書記をつとめた高松幹主事が総務課へ転出しました。後任として山本由雄係長が事務局次長に、寺田俊介主事が事務局書記に就任しました。

● 太素塚清掃奉仕

- 4/20 小さな親切運動十和田支部清掃奉仕
 - 4/25 東ロータリークラブ清掃奉仕
 - 5/15 大学通老成会清掃奉仕
 - 4/7 6/2 本瀬戸山老成会清掃奉仕
- ありがとうございました。

● 平成13年12月1日～平成14年6月30日までの来館小学校

(十和田市) 南小学校・深持小学校 (七戸町) 七戸小学校 (百石町) 甲洋小学校・百石小学校 (東北町) 甲地小学校 (横浜町) 南部小学校 (南部町) 南部小学校

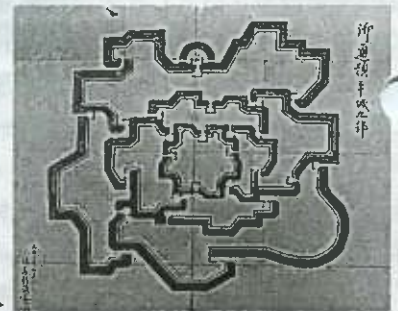
活動報告

● 館長講演会

6月22日久留米大学医学部第2内科同門会で特別講演として「新渡戸稲造-思想の原点は父祖の三本木原開拓にあり」の演題で講演を行いました。

● 平成13年度分当館資料の裏打ち完了

新渡戸十次郎による兵法関係絵図面や三本木の歌人・岩館精素による大正4年新渡戸傳没後45年祭献詠原稿など39点の資料を裏打ちしました。



御通題平城九郭 ▶ 嘉永五年九月 鎌倉新渡戸常訓(十次郎)編

当館での学習はあおもり県民カレッジの単位として認められます。



〈編集後記〉

太素塚・十和田市立新渡戸記念館周囲の環境整備につとめております。このところ近所のかたがたから大変援助をいただき、まさにボランティアで植物園ができつつある事を喜んでおります。お礼申し上げますとともに、一層のご協力をお願い申し上げます。

発行 太素顕彰会

十和田市立新渡戸記念館

☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

E-mail:nitobemm@hi-net.ne.jp

http://www.towada.or.jp/nitobe/

印刷 有限会社 岩間印刷所